

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3145 号 2016.7.26 発行

障害者刺され 19人死亡 相模原の施設



中日新聞 2016年7月26日
刃物を持った男が侵入し、多数の死傷者が出た障害者施設「津久井やまゆり園」で対応に当たる救急隊員ら＝26日午前7時10分、相模原市緑区で、本社へリ「まなづる」から（川上智世撮影）

二十六日午前二時四十五分ごろ、相模原市緑区千木良、知的障害者施設「津久井やまゆり園」の職員から「刃物を持った男が施設に来ている」と一一〇番があった。神奈川県警や消防によると、入所者が首などを刺され、現場で十九人が死亡した。ほかに二十五人が重軽傷。県警は殺人未遂と建造物侵入の疑いで、午前

三時すぎに津久井署に出頭した現場近くに住む元職員植松聖（さとし）容疑者（26）を逮捕した。

警察庁によると、犠牲者十九人は、平成以降の殺人事件では最多の死者数で、戦後としても最悪の被害とみられる。

県警によると、植松容疑者は自称無職で「ナイフで刺したことに間違いない」と容疑を認め「障害者なんていなくなっ



てしまえ」との趣旨の供述をしている。県警は同署に捜査本部を設置し、今後容疑を殺人に切り替えて経緯や動機を調べ、全容解明を進める。

相模原市によると、植松容疑者は二月十八日に施設関係者に「障害者を殺す」と発言し、津久井署が事情聴取していた。

植松容疑者は車で出頭。包丁やナイフ計三本が入ったかばんを所持していた。血が付いた物もあった。「縛られている人がいる」との通報もあり、県警は植松容疑者が被害者を縛っていた可能性があるともみている。

死者十九人が見つかったのは、二階建ての居住棟内で、男性が入居する西棟の一階で二人、二階で七人、女性が入居する東棟一階で十人だった。東棟東側一階の窓ガラスが割れ、近くにハンマーが落ちていた。ここから侵入した疑いがある。

消防によると、死亡した十九人は十九歳から七十歳で、男性九人、女性十人。東京医科大八王子医療センターによると、重傷者のうち同センターに搬送された男女四人は意識不明。

神奈川県などによると、植松容疑者は二〇一二年十二月から施設に勤務し、今年二月に

「自己都合」を理由に退職した。

現場はＪＲ中央線の相模湖駅から東約二キロ。山に囲まれた住宅地で、近くに市立小学校もある。

◆容疑者の手紙 ポイント

▼私は障害者総勢４７０人を抹殺できる。私の目標は障害者が保護者の同意を得て安楽死できる世界だ。

▼職員の少ない夜勤に決行する。障害者が多く在籍している園を標的とする。

▼職員は傷つけず速やかに作戦を実行し、抹殺した後は自首する。

【相模原多数刺殺】黒岩祐治・神奈川県知事会見「心からおわび」 植松容疑者は２月に施設を退職



産経新聞 2016年7月26日
事件のあった津久井やまゆり園の建物内を慌ただしく動く救急隊員ら＝26日午前、神奈川県相模原市緑区（桐原正道撮影）

相模原市の障害者施設で入所者らが刺殺された事件を受け、同施設を設置した神奈川県の黒岩祐治知事は26日午前、記者会見し、「県は指導監督する立場から、心からおわび申し上げるとともに、亡くなられた方々には心から哀悼の意を表する。被害に遭われた方々への支援をできる限り行うとともに、警察の捜査に全面的に協力し、

再発防止に全力を尽くす」と述べた。

会見した県保健福祉局によると、殺人未遂容疑などで逮捕された植松聖容疑者（26）は、平成24年12月1日から今年2月19日まで勤務していたが、勤務当時のトラブルについては報告がないという。

施設では20人ごとに「ユニット」と呼ばれる単位で共同生活を行っており、8ユニットあった。夜勤担当者は1人で1ユニットを見る態勢で、そのほかに非常勤の警備員がおり、事件当時は計9人の職員がいた。施設内には16台ほどの監視カメラが設置されているという。

「弱者狙い身勝手」＝障害児の母、施設襲撃事件に憤り－相模原刃物男

時事通信 2016年07月26日

相模原市の障害者施設で入所者が殺傷された事件について、市内の発達障害児の親の会で以前代表を務め、自身も発達障害の子を持つ女性（42）は「まだ動機が見えず何とも言えないが、弱者を狙っていて身勝手だ」と憤った。

事件発生後、すぐに以前のメンバーに連絡を取り、全員の無事を確認した。会には現場となった「津久井やまゆり園」に数年前に通っていた男子高校生の親もいるという。

同市の知的障害者の保護者団体「相模原市手をつなぐ育成会」では、佐々木俊治理事長（74）が早朝から対応に当たり、会員などに被害がないか確認した。佐々木理事長によると、元会員で同施設に長期入所している男性が1人亡くなったとの連絡が入ったという。

関係者の男性（72）は、以前にダウン症の長男（45）を同施設に何度か短期で預けたことがあり、施設利用者は重度の障害を持つ人が多いと説明する。男性は「なぜこうした犯行に及んだのか。犯人の詳しい動機が知りたい」と話した。施設利用者で現在連絡が取れない知人もいい、「大丈夫だと良いが」と気をもんだ。同会の別の女性（67）は「自分のことのようにとてもショックだ。抵抗できないような弱い人に刃を向けるのはひきょうだ」と怒りをあらわにした。

相模原市の障害者施設で起きた殺傷事件を受け、知的障害者の家族会の関係者からは怒りの声が上がった。

「全国手をつなぐ育成会連合会」の田中正博統括（55）は「ニュースで見て衝撃を受けた。ただでさえ生きるのに支援を求めている人たちに対し、とんでもないこと。言語道断だ」と憤る。「亡くなった方の冥福を祈るしかない」と肩を落とした。[共同]

「意思疎通できない人刺した」 県警が捜査本部 障害者施設殺傷

日本経済新聞 2016年7月26日

相模原市の障害者施設殺傷事件で、神奈川県警は26日、津久井署に捜査本部を設置し、殺人未遂容疑などで逮捕した元施設職員、植松聖（さとし）容疑者（26）の取り調べを本格的に始めた。植松容疑者は「意思疎通のできない人たちをナイフで刺したことに間違いない」と供述しているという。

逮捕容疑は26日午前2時ごろ、相模原市緑区千木良の障害者施設「津久井やまゆり園」に侵入し、入所者の女性（19）を刃物で刺した疑い。その後、女性は死亡した。

事件では男女19人が刃物で刺されて死亡し、25人が重軽傷を負った。捜査本部は今後、容疑を殺人に切り替え、事件の経緯や動機を調べる。

衆院議長公邸に手紙持参 障害者殺傷事件の容疑者か 日本経済新聞 2016年7月26日

逮捕された植松聖容疑者とみられる男が今年2月中旬、東京都千代田区の衆院議長公邸を訪ね、大島理森衆院議長宛ての手紙を持参していたことが26日、警視庁麹町署への取材で分かった。手紙はまとまりのない内容だったという。

同署によると、植松容疑者とみられる男は2月14日と15日に議長公邸を訪問。公邸を警備していた警察官に手紙を渡すなどした。麹町署は衆院側と相談し、手紙を預かった。差出人として植松容疑者の名前と住所が書いてあった。

手紙は手書きで、意味が通じにくい内容が大量につづられていた。麹町署はこの直後、2回の訪問について神奈川県警津久井署に連絡したという。

首相「真相究明、政府として全力」 障害者殺傷受け 日本経済新聞 2016年7月26日

安倍晋三首相は26日午前の自民党役員会で、相模原市の障害者施設で起きた殺傷事件について「多数の方がお亡くなりになり、重軽傷を負われた。心からご冥福、お見舞い申し上げます。これから真相究明をしていかなければならない。政府としても全力をあげたい」と述べた。

植松容疑者、犯行時刻ごろツイートか「世界が平和に…」 朝日新聞 2016年7月26日

津久井署脇にとめられていた容疑者のものとみられる車。



ハンドル付近に血痕があった＝26日午前8時43分、相模原市緑区、葛谷晋吾撮影
26日未明に相



模原市の障害者施設で起きた殺人事件。植松聖容疑者のものとみられる「聖」名のツイッターアカウントには、植松容疑者が津久井やまゆり園を退職した2月19日に、「会社は自主退職、このまま逮捕されるかも……」との投稿が残されている。

2015年1月20日付の投稿では、背中に入れ墨が入った写真を載せて、「会社にバレました。笑顔で乗りきろうと思います。25歳もがんばるぞ!!」と書いていた。ドイツ・ミュンヘンで銃乱射事件があった今年7月23日には「ドイツで銃乱射。玩具なら楽しいのに」と投稿している。

最後の書き込みは、犯行時刻前後の26日午前3時前。「世界が平和になりますように。beautiful Japan!!!!!!」と記載。赤いネクタイに白いワイシャツ、黒いスーツ姿で、口を半開きにし、少し固い笑みを浮かべて正面を向いた自撮り写真を掲載している。

障害者向けの入所支援サービス、全国で13万人超が利用 朝日新聞 2016年7月26日

厚生労働省によると、神奈川県指定管理施設である「津久井やまゆり園」のような障害者向けの施設入所支援サービスを提供する事業者は、昨年3月時点で全国に約2600ある。利用者は13万2千人余り。

事業者は障害者総合支援法に基づき、重い知的障害があつて常に介護が必要な人らを長期間受け入れ、入浴や排泄（はいせつ）、食事の介助といった福祉サービスを提供する。津久井やまゆり園では、普段は自宅で暮らす障害者を短期間受け入れるサービスも実施していた。

厚労省が2014年に実施した調査によると、障害者の身の回りの介助をする施設職員（生活支援員）の年収は常勤で約330万円、非常勤では約190万円だった。

事件を受けて、厚労省幹部は「再発防止策を検討したい」と話している。

重度の知的障害者受け入れ 事件のあった津久井やまゆり園

日本経済新聞 2016年7月26日

津久井やまゆり園は神奈川県が設置し、社会福祉法人「かながわ共同会」（同県厚木市）が指定管理者として運営している。県によると、介助が必要な重度の知的障害者を受け入れており、定員は160人。今年7月1日時点で19～75歳の149人（男性92人、女性57人）が入所していた。職員は24時間常駐していたという。

開設は1964年。敷地面積は約3万平方メートルで、東西にそれぞれ居住棟がある。東の居住棟は1階が女性、2階は男性と女性が入所し、西の居住棟は1、2階とも男性が入所。敷地内にはこのほか、管理棟や作業棟、厨房棟、グラウンドなどがある。

入所者は、支援の度合いを示す6段階の「障害支援区分」で最も高い区分6が116人、区分5が31人、区分4が2人という。施設では入所者の食事や入浴、排せつなどの介助のほか、障害の程度に応じて園芸作業や創作活動の場なども提供。一時的な入所サービスも利用できるという。

障害者施設殺傷事件 防犯カメラに容疑者の男とみられる姿

NHKニュース 2016年7月26日

相模原市の障害者施設に刃物を持った男が侵入し、入所者などが刺された事件で、警察は元職員の植松聖容疑者（26）を殺人未遂などの疑いで逮捕しました。事件が起きた施設から200メートルほど離れた住宅に設置された防犯カメラには、事件の前後の植松容疑者とみられる男の姿が映っていました。

防犯カメラに記録された時間では、午前1時37分ごろに、黒っぽい色の乗用車が画面

の右、西方向から速いスピードで走ってきて、路上に止まります。

運転席から降りた男は半袖シャツに長ズボン姿で野球帽をかぶっていて、トランクを開けて荷物を取り出しているのが確認できます。

助手席のドアも開けて、しばらくしたあと、午前1時40分すぎに施設の方向に荷物を持って歩いていく姿が写っています。

男はすぐに戻り、その後、大きな荷物を肩に掛け、再び施設の方向に歩いていくのが確認できます。

そして午前2時50分すぎ、荷物を持った男が走りながら車に戻ってきて、その後、車は走り去りました。



障害者施設「津久井やまゆり園」で殺傷事件を起こした植松聖容疑者の自宅前に集まる報道陣＝26日午前、相模原市緑区【時事通信社】

被害者らの治療続く...神経や骨に達する深い傷も

テレビ朝日ニュース 2016年7月26日

26日未明、神奈川県相模原市の障害者施設に刃物を持った男が押し入り、入所者らが次々と刺されて19人が死亡しました。直後に男が警察署に出頭し、殺人未遂などの疑いで緊急逮捕されました。被害者が搬送された複数の病院では緊急の手術や処置をするため、今も対応に追われています。

(社会部・中村昌太郎記者報告)

北里大学病院には14人が搬送されています。未明のため、寝間着姿の人が多かったということです。

北里大学病院：「重症が8名、中等症が4名、軽症が2名、合計14名です。(重症の)8名のうち現在、4名の方が緊急手術に入っています」

すでに多くの人の処置が終わっていて、今のところ、全員、容体は落ち着き始めているといいます。病院によりますと、数人を除いてほとんどの人が首に切り傷がありました。なかには神経や骨に達するほど深い傷もあったということです。病院には被害者の家族が順次、駆け付けていて、職員が容体の説明にあたっています。

相模原多数刺殺 血まみれの建物内、搬送できない遺体...無差別に次々刺傷「なぜこんな静かな町に」

産経新聞 2016年7月26日

事件のあった「津久井やまゆり園」の前に集まった緊急車両＝26日午前、神奈川県相模原市緑区(桐原正道撮影)



深夜に窓を破って施設に入った元職員の男は、就寝中の入所者を無差別に刺していった。相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」に26日未明、刃物を持った男が押し入り19人が死亡、25人が負傷した事件。多くの被害者は首を刺されており、血で染まった建物内は搬送できない遺体であふれた。「なぜこんな静かな町で事件が...」。山あいの住宅地はサイレンが鳴り響き、緊迫した

雰囲気包まれた。

「刃物を持った男が施設に侵入した」

施設職員から110番通報があったのは26日午前2時45分ごろ。関係者によると、当時施設内には警備員を含む数名の職員がいた。

入所者が住む居住棟は、東と西の2つに分かれており、殺人未遂容疑などで逮捕された植松聖（さとし）容疑者（26）は、このうち西の棟の1階から窓ガラスをハンマーで割って侵入したもようだ。そして、就寝中だったとみられる入所者らを刃物で無差別に刺した。

周辺の防犯カメラには、植松容疑者とみられる男が施設に車で乗り付けて、中に入っていく様子が映っていた。

事件のあった施設に妻が務めているという近くの無職、榎本正明さん（66）によると、午前4時ごろ、家で寝ていた妻に施設から電話で「侵入者があって、けが人が出ている」と連絡があり、妻は慌てて施設へ出かけたという。

施設には、パトカーや救急車、消防車が多数集まり、招集されたとみられる職員が乗った車も次々と中に入っていた。

施設入所者の家族で作る「みどり会」の中塚清副会長（73）は、自身の40代の長男の安否確認のため、施設を訪れた。西側の棟にいたという長男は無事だったが、「東の棟にも西の棟にも血が飛び散っていた。血で靴がすべったような痕もあった。まだ搬送できていないご遺体もあると聞いた」と話した。

「施設に電話したら、息子がけがをしていると言われた」。現場近くに住む80代の男性は、50代の息子が施設に入っているといい「中に入れず、状況が分からない」と混乱した様子で話した。

事件の一報を受け、現場には100人を超す報道陣が詰めかけた。施設の正門前には規制線が張られ、見張りの警察官が厳しい表情で警備。施設内では警察官らが慌ただしく活動している様子で、その間にも続々と救急車両がけたたましくサイレンを流しながら駆けつけていた。

神奈川県警津久井署では、早朝から幹部が報道陣の取材に応じ「詳しいことは分からない」と繰り返した。署の駐車場には植松容疑者が出頭時に運転していたとみられる黒色の乗用車が止まっており、車内にはペットボトルやポリ袋が散乱していた。

施設近くに住む元職員の男性（81）は「自分が働いていた約20年前は、職員と入園者のトラブルはなかった」と振り返り「こんなことは初めてだ」と困惑した様子で語った。

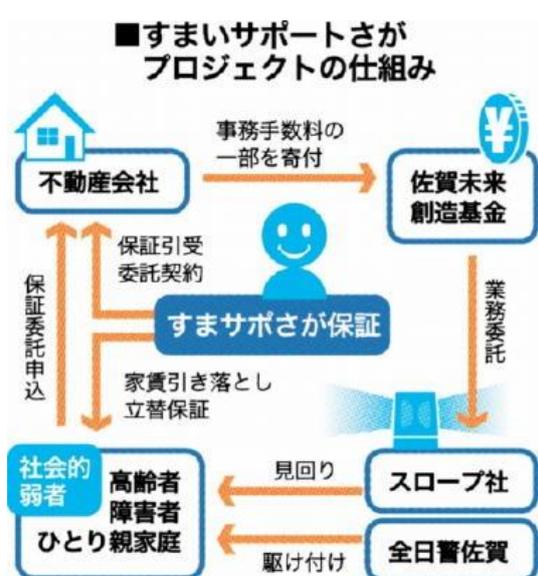
保証人なしで賃貸契約 障害者や高齢者支援 「すまサポートさが プロジェクト」始動

佐賀新聞 2016年07月26日

保証人を頼める人が周りにおらず、賃貸住宅を借りることが困難な障害者や一人暮らしの高齢者らを支えたいと、佐賀県内の公益財団法人などが「すまサポートさがプロジェクト」を始めた。保証人がいなくても賃貸契約を結べる保証システムを広めるとともに、孤独死などを防ぐ見守り体制づくりも目指している。

支援事業を発案したのは、障害者を対象にしたビジネススクール「ユニカレさが」（佐賀市）代表の大野博之さんと、教え子で障害者を雇用する見守り会社「スロープ」（同）を立ち上げた中尾彰宏さん。社会的に立場の弱い人が安心して暮らすためのビジネスモデルとして考えた。事業は、県の「CSO提案型協働創出事業」に採択されている。

計画によると、事業の中心となるのは公益財団法人・佐賀未来創造基金などが立ち上げた賃貸保証会社「すまサボさが保証」。障害者ら



が賃貸住宅を借りる際に保証人代わりとなる。家賃滞納が発生した場合は、すまサポが立て替える。

一方、すまサポなどの共同事業体は、協力してくれる不動産会社に初回保証委託料の10%を佐賀未来創造基金に寄付するよう依頼。これをもとにスロープのスタッフである障害者が入居者宅を見回り、トラブル発生時には警備会社が対応する。

事業は本年度、佐賀、小城、神埼の3市の賃貸住宅約3万9千戸を対象にスタートする。事業代表の大野さんは「軌道に乗せるには、この家賃保証制度を利用していただける不動産会社の参画が不可欠」と強調。「不動産で地域貢献できる全国初の試みとして育てていきたい」と話している。問い合わせはスロープ、電話0952(65)4885。

若年認知症を支援 デイサービスのモデル事業開始 埼玉 有近隆史

朝日新聞 2016年7月26日



若年認知症の人たちが自主運営するデイサービス「物忘れカフェ」で提供する食材を選ぶ女性。全国には若年認知症に特化したサービスを行う地域もある＝滋賀県内

埼玉県は、65歳未満で発症する「若年認知症」の人に特化した通所介護サービス（デイサービス）を提供するモデル事業を今月から県内2カ所で始めた。県内で適切な支援が不足しているため、県がサービスの普及を目指す取り組みだが、課題も見え始めている。

事業者選ばれたのは、広くデイサービスを提供している「アップネス」（春日部市）。現在、男性3人、女性1人が利用者登録しており、3人が60代で、50代も1人いる。毎週土曜日の午前10時から午後3時までが若年認知症向けサービスを提供する時間だ。

若年認知症の人は大半が働いている世代で、レクリエーションなどが中心の高齢者向けデイサービスになじめない人も多い。このため、地域貢献や社会参加につながる役割を演じてもらうメニューを設けているのが大きな違いだ。

保育士年収に地域格差 全職種平均には遠く

西日本新聞 2016年07月26日

保育士の平均年収

待機児童の解消に向けて保育士の確保が全国的な課題となる中、民間保育所で働く保育士の2015年の平均年収が都道府県によって最大約180万円の格差があることが、西日本新聞の試算で分かった。九州でも福岡、佐賀両県で約140万円の開きがあり、各県とも主要産業の平均年収の6～8割にとどまる。低賃

県	保育士(公務員以外)		全129職種の平均年収
	平均年収(全国順位)	全職種の平均年収比	
福岡	359万3000円(3)	83%	433万5000円
佐賀	221万7000円(46)	58%	382万8000円
長崎	284万1000円(37)	73%	391万3000円
熊本	302万円(26)	75%	404万7000円
大分	276万8000円(41)	70%	394万8000円
宮崎	297万6000円(31)	80%	370万7000円
鹿児島	271万3000円(43)	69%	393万5000円
全国	323万3000円	66%	489万2000円

※厚生労働省の賃金構造基本統計調査(2015年)を基に試算。短時間労働者を除く

金に加え地域間格差も浮き彫りになった形で、専門家からは離職や人材流出を防ぐ処遇の底上げを求める声が強まっている。

厚生労働省が主要産業129職種の事業所を対象に実施した15年の賃金構造基本統計調査を分析。パートなど短時間労働者を除く保育士（公務員以外）の給与月額と年間賞与などを合算し、平均年収を推計した。

その結果、保育士の全国平均年収は323万円で、全129職種平均の66%にとどまった。最低額は鳥取県で201万円。最高額は愛知県の383万円で、約180万円の差

があった。九州では佐賀県が全国で2番目に低い222万円。福岡県は359万円で全国3位だが、熊本26位、宮崎31位、長崎37位、大分41位、鹿児島43位と全体的に低水準だった。

保育士の平均勤続年数は最長の福岡で10年。鹿児島は6年2カ月、佐賀は2年5カ月で、勤続年数と年収の関連も浮かんた。賃金の原資となる保育単価（認可保育所への国の補助金）は国が市町村ごとに賃金水準や物価を基に区分しており、保育単価の地域間格差が人材確保に影響している可能性もある。

保育士の処遇について政府は「1億総活躍プラン」で給与を2%（月約6千円）、経験を積んだ職員は月4万円程度上げるとしている。ただ、公立と私立、正規と非正規の給与の隔たりも指摘されており、賃金アップへの自治体の取り組みも求められている。

■全体の処遇引き上げ必要 保育政策に詳しい池本美香・日本総合研究所主任研究員の話

民間で働く保育士の収入は仕事の大変さに見合っていない。少しでも条件のいい職場に移る動きが出ており、人材流出の懸念がある。都市部の方が高収入の傾向だが、地方でも保育士不足のところがある。保育の質を高めるためにも、処遇を全体的に引き上げる必要がある。保育所への補助金が賃金に反映されているか検証すべきだ。

■公立と私立の給与差問題 鈴木亘学習院大教授（社会保障論）の話

都市部と地方では物価や保育士の需要も異なり、年収の地域差は仕方ない。ただ、国が定める保育単価が低すぎて民間保育士の給与が低いのは確か。処遇改善が必要だ。一方で、公立保育所の保育士（公務員）は自治体の補助もあり、はるかに給与が高い。公立と私立の格差が大きな問題だ。保育所の民営化を進め、私立への補助を手厚くすべきだ。

障害者の平泉観光を支援 秋の全国大会に合わせ 岩手日報 2016年7月26日



障害者や高齢者の快適な観光をサポートしようと研修に臨む受講者

県南広域振興局は9、10月、岩手国体と全国障害者スポーツ大会に合わせ、平泉町内に平泉ユニバーサルデザイン観光情報センターを開設する。両大会のため県内を訪れ、平泉に立ち寄る障害者や高齢者らの快適な観光を支援するのが狙い。25日は平泉観光介助ボランティアの養成研修会を初めて開き、支援者の育成も進めていく。

同センターは、両大会などで「世界遺産の町」を訪れる人に、障害の有無や年齢にかかわらず観光を楽しんでもらおうと設ける。介助ボランティアも配置予定で、同日は平泉文化遺産センターで研修会を開いた。

8人が参加し、講師を務めた古都ひらいずみガイドの会の関宮治良会長が観光ガイドとしての知識や心構え、接遇マナーなどを説明。町内の障害者福祉施設「黄金荘」の小笠原隆副施設長が講演した。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行